

主な血液検査の参考基準値と検査項目の説明

	検査項目	名称	基準値	単 位	説明
蛋白	TP	総蛋白	6.7~8.3	g/dl	身体の栄養状態の指標になります。
	Alb	アルブミン	3.8~5.3	g/dl	
肝機能	AST(GOT)	アスパラギン酸 アミノトランスフェラーゼ	5~40	IU/l	肝臓や心臓の細胞に多く含まれ、その細胞が壊れると高値になります。
	ALT(GPT)	アラニン アミノトランスフェラーゼ	5~45	IU/l	特に肝臓の細胞に多く含まれ、細胞が壊れると高値になります。
	LDH	乳酸脱水素酵素	120~240	IU/l	肝臓や心臓疾患、血液疾患などで高値になります。
	ALP	アルカリフォス ファターゼ	110~350	IU/l	肝・胆道系・骨疾患などに関係し、子供の成長期にも高値になります。
	γ-GTP	γ-グルタミルトランス ペプチダーゼ	男 0~85	IU/l	特にアルコール性の肝障害で上昇します。
			女 0~45		
	ChE	コリンエステラーゼ	男 240~ 490 女 190~ 455	IU/l	肝障害で低値になります。
T-Bil	総ビリルビン	0.2~1.1	mg/dl	肝細胞障害で上昇し、黄疸の指標になります。	
脂質	TC	総コレステロール	130~219	mg/dl	コレステロールの総量。動脈硬化の危険因子です。
	TG	中性脂肪	50~149	mg/dl	食事により大きく変動し、動脈硬化の危険因子になります。
	HDL-C	HDLコレステロール	男 40~90	mg/dl	善玉コレステロールとも言われ、低値ほど動脈硬化になり易くなります。
			女 40~100		
LDL-C	LDLコレステロール	70~139	mg/dl	悪玉コレステロールとも言われ、動脈硬化の危険因子です。	
腎機能	BUN	尿素窒素	8~20	mg/dl	食事によっても変動し、腎機能障害で上昇します。
	Cre	クレアチニン	男 0.4~ 1.14	mg/dl	腎機能障害で上昇します。
			女 0.31~ 0.88		
UA	尿酸	男 3.8~7.0 女 2.4~7.0	mg/dl	血中に増え過ぎると痛風の原因になります。	
心機能	CK	クレアチンキナーゼ	男 40~220 女 40~160	IU/l	筋肉・心臓・脳に含まれる酵素で筋・心臓疾患などで上昇します。

	検査項目	名称	基準値	単 位	説明
膵	AMY	アミラーゼ	40~129	IU/l	膵炎、耳下腺炎などで上昇します。
電解質	Na	ナトリウム	137~147	mmol/l	脱水などで高値になります。
	K	カリウム	3.5~5.0	mmol/l	腎臓機能障害などで上昇します。
	Cl	クロール	98~108	mmol/l	水分代謝異常の指標になります。
	Ca	カルシウム	8.4~10.4	mg/dl	副甲状腺ホルモン、骨代謝、腎機能などの影響を受けて変動します。
	P	無機リン	2.5~4.5	mg/dl	血中カルシウム濃度の変動と関係があります。
	Mg	マグネシウム	1.9~2.5	mg/dl	血中カルシウム濃度の変動と関係があります。
炎症	CRP	C反応性蛋白	< 0.3	mg/dl	炎症が有ると増加します。
鉄	Fe	血清鉄	男 50~200	μg/dl	鉄欠乏性貧血などで低値になります。
			女 40~180		
糖代謝	血糖	血糖	70~109	mg/dl	血液中のブドウ糖濃度で、糖尿病の診断に用いられています。
	HbA1c	ヘモグロビンA1c	4.6~6.2	%	約2ヶ月間の平均的な血糖値を反映します。
血算	WBC	白血球数	3.5~9.3	千/μl	細菌やウイルスの感染や炎症などで増加します。
	RBC	赤血球数	男 430~ 570	万/μl	貧血、多血症、脱水の指標になります。
			女 380~ 510		
	HGB	ヘモグロビン	男 14~18 女 12~16	g/dl	
	HCT	ヘマトクリット	男 42~53	%	
			女 37~47		
	MCV	平均赤血球容積	87~102	fl	赤血球の平均的な体積です。
	MCH	平均赤血球色素量	28~34	pg	赤血球中のヘモグロビン量です。
	MCHC	平均血球色素濃度	30~35	%	赤血球中のヘモグロビン濃度を比率で表した数値です。
PLT	血小板数	12~35	万/μl	止血に関与する血小板の数で、出血や血栓に関係します。	